2022 年度　卒業式式辞

中京大学で学び、本日、ご卒業を迎えられた皆さんに、心よりお祝いを申し上げます。おめでとうございます。

ご卒業される皆さんを今日まで支えてこられたご家族の方々にもお慶びを申し上げます。教育、指導にあたってこられた教職員の皆さまにも、深く感謝いたします。

学校法人梅村学園は今年、創立 100 周年を迎えました。学園にとって記念すべき、この節目の年に社会へと巣立っていくことを、皆さんにはぜひ、大いに誇りに感じていただきたいと思います。

学園の歩みは、1923 年（大正 12 年）、中京商業学校、現在の中京大学附属中京高等学校の開校によって始まります。本学はそれから 30 年余りを経た 1954 年（昭和 29 年）に中京短期大学として開学し、その 2 年後に四年制大学となりました。

本学は開学以来、校訓「真剣味」、建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」を独自の教育方針として掲げ、数多くの卒業生を送り出してまいりました。学部卒業生と大学院修了生の総数は、皆さんが加わることによって延べ 14 万 5000 人を超えることになります。この先、皆さんがどのような方面に進まれても、それぞれの分野で本学の先輩と出会い、言葉を交わす機会があることと思います。ぜひ同窓の絆を深めていってください。

同窓生の頑張りということで申しますと、この１年間もさまざまなスポーツ競技において、本学の在学生や卒業生らの素晴らしい活躍がありました。フィギュアスケートのグランプリファイナルでは、三浦璃来選手・木原龍一選手のペアが、見事に日本勢初となる優勝を飾りました。男子でも、宇野昌磨選手、山本草太選手が１位と２位を占めるなど、力を遺憾なく発揮してくれました。あす 22 日に始まる世界選手権でも各選手に大きな期待が寄せられているのは、皆さんもご承知の通りです。

また陸上では、スポーツ科学部 OB で陸上競技部プレーイングコーチの川端魁人選手が世界選手権の男子 1600 メートルリレーで日本新記録を樹立し、史上初の４位入賞に輝きました。更に水泳ではインカレで女子が総合優勝を飾るなど、それぞれの競技で多くの選手が自らの限界に挑み、輝かしい成果を上げてくれました。いずれも、ルールを守る、ベストを尽くす、チームワークをつくる、相手に敬意を持つ、という建学の精神の四大綱を存分に体現してくれたものであり、本当に嬉しい限りです。

さて、ここから新たな門出に立とうとする皆さんを待ち受ける道は、決して平坦なものではありません。

2020 年１月に国内初の感染者が確認されて以来、社会に大きな影響を与えてきた新型コロナウイルス感染症は、５月から、感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザなどと同じ「５類」に変わります。この３年間はコロナの感染予防という観点から、わたくしたちの日常生活にはさまざまな制限が加えられました。本学でも、学生の皆さんの健康と安全を最優先に考える立場から、授業を原則としてオンラインとしたり、部活動にも一時的に制限を加えたりといった措置をとらせていただきました。皆さんにとっては残念に感じられることも多々あったかと思いますが、この間の感染予防対策にご協力いただいたことに、あらためて感謝申し上げます。

５類への移行に伴って感染対策や医療体制は大幅に見直されることとなりますが、今後も引き続き、変異株による新たな流行拡大の懸念は残ります。皆さんにはぜひ、自らの健康も含め、自分の身は自分で守るという自覚を持って社会生活を歩んでいってもらうことを期待致します。

海外に目を向ければ、何といっても心配されるのは、ロシアのウクライナ侵攻です。既に侵攻開始から１年が経過しましたが、終結に向けた糸口は一向に見えません。両国の死傷者は兵士と民間人合わせて 30 万人を超えたとされています。人命がいかに軽んじられているか、強い怒りと悲しみを感じずにはいられません。

長期化の様相が色濃くなる中で、アメリカをはじめとする NATO（北大西洋条約機構）加盟国とロシアとの対立は深刻さを増し、世界は新たな冷戦時代に入ったとさえ言われています。一日も早く事態を収束させ、停戦に向けた動きを進めることは、世界全体に課せられた大きな命題です。

ウクライナ情勢はエネルギー市況や穀物価格にも影響を与え、世界的な物価高を招いています。国内では、１月の全国消費者物価指数が前年同月比 4・2%増と、第二次石油ショックの時以来、41 年 4 か月ぶりの高い上昇率となりました。体力のある大手企業ではこれに対応して賃上げを行うところも少なくないようですが、価格転嫁が難しい中小企業への影響は甚大であり、日本経済の成長を阻害する要因として懸念されます。

わが国の将来を考える上では、少子化問題も避けて通れません。2022 年の日本国内の出生数は、統計を取りだしてから初めて、80 万人を下回りました。コロナの影響があるとはいえ、予想より 10 年ほど早いペースで少子化が進んでいます。今後もこうした状況が続くならば、近い将来、国家財政や社会保障のあり方が抜本的な再検討を迫られることになります。若い世代が安心して子供を産み、育てることのできる社会、それを周囲が笑顔でサポートしていく社会こそ、今望まれているものでしょう。

地球温暖化への対策も急務です。わが国においても既に、動植物の分布の変化など生態系への影響は多数確認されており、自然災害の増加・激甚化も誰もが実感しているところです。脱炭素をいかに進め、温室効果ガスの排出を削減してい

くか。国のエネルギー政策に深く関わる問題ですが、わたくしたち一人ひとりが自分の生活や命に関わることとして真剣に向き合っていかねばなりません。残されている時間は決して多くはないのです。

さまざまな要素が複合的に絡み合い、時代の舵取りは極めて難しいものになってきています。30 年先、あるいは 50 年先の日本の姿としてどんな青写真を描き、社会の在り方を変えていくのか。恐らく、唯一の正解というものはありません。正解がないからこそ、そこに生きる人間の叡智が問われることになるのでしょう。ある時は歴史を振り返って過去の教訓に学ぶ。別の局面では既存の常識にとらわれず、大胆な発想でステージの転換を図る。これから先、そうした役割を担っていくべきは、柔軟な感性を備えた若い世代ではないでしょうか。皆さんにはぜひ、本学で培った「自ら考え、行動することのできる力」を存分に発揮して、新たな時代を切り拓いていってくれることを期待したいと思います。

梅村学園の創立 100 周年に続き、来年、2024 年には中京大学が開学 70 周年を迎えます。これに合わせて現在、2024 年度から 10 年間の新たな長期計画「NEXT10 2033」の策定を進めているところですが、全学一丸となってさらなる改革を推し進め、皆さんにとって、より誇り得る母校に育てていくことをお約束致します。

この先も母校・中京大学を忘れることなく、学びを続け、さらに大きなステージへと飛躍していってください。辛い時、苦しい時こそ、校訓「真剣味」、建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」を思い出し、自分を信じて一歩ずつ歩んでいってください。そんな皆さんの前に、必ず道は拓けます。

本日はご卒業、誠におめでとうございます。

2023 年 3 月 21 日

中京大学長
梅村清英